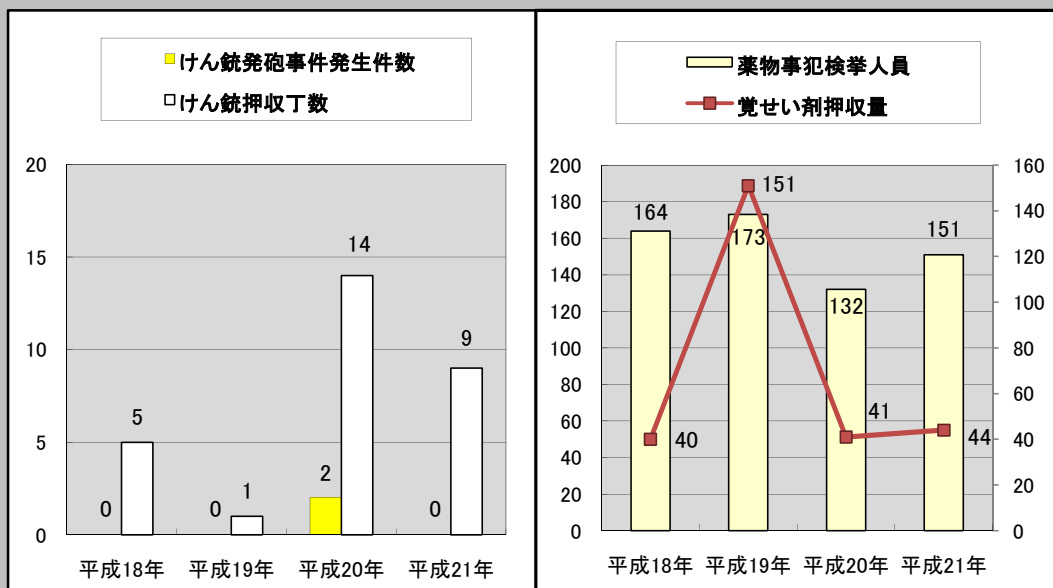


業 務 名

銃器・薬物犯罪対策の推進

○業務に関する統計

項 目	統 計 の 推 移				
けん銃発砲事件発生件数	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	単位
	0	0	2	0	件
けん銃押収丁数	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	単位
	5	1	14	9	丁
薬物事犯検挙人員	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	単位
	164	173	132	151	人
覚せい剤押収量	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	単位
	40	151	41	44	g



○業務の主なコスト

No.	事 業 名	平成21年度事業費 (千円)	平成22年度事業費 (千円)
1	銃器総合対策強化費	1,484	3,175
2	薬物事犯対策費	79	78
3			
4			
5			
6			
7			
8			
合 計		1,563	3,253

○平成21年の取組み

●平成20年に、県内で銃器発砲事件が2件発生し、1人が負傷するなど、県民に不安を与えている状況にあることから、これを解消するため、

- ・ 暴力団関係者等が隠匿するけん銃の摘発
- ・ 税関、海上保安庁等関係機関と連携した密輸対策
- ・ 県民の理解や協力を確保するための広報活動

などの各種対策を推進し、けん銃9丁（前年対比-5丁）等を押収した。

●薬物犯罪組織の壊滅及び第三次覚せい剤乱用期の早期終息を目指し、

- ・ 薬物密売組織、末端乱用者の検挙
- ・ 税関、海上保安庁等関係機関と連携した水際対策の推進
- ・ 薬物乱用防止啓発活動の普及を目指した広報活動

などの各種対策を推進し、薬物事犯で151人（前年対比+19人）を検挙するとともに、覚せい剤約44g（前年対比+約3g）等を押収した。

○課題と平成22年の取組み

●薬物・銃器犯罪は、組織的に敢行され、犯行の手段・方法もより巧妙化しており、組織実態を隠ぺいする動きを強めていることから、犯行組織に係る情報を収集分析し、実態解明を推進する。

●薬物売買等の犯罪により得た収益は、密売組織等の維持拡大や新たな犯罪行為に利用されることから、犯罪収益を没収・追徴するなど、犯罪収益対策を推進する。

●引き続き、関係機関と連携し、

- ・ 薬物密売組織、末端乱用者の検挙
- ・ 税関、海上保安庁と連携した水際対策
- ・ 薬物乱用防止啓発活動の普及を目指した広報活動

などを推進する。